

01

02

Title

活動発表の講評

03

04

05

06

07

08



社団法人秋田県緑化推進委員会

理事長 桃崎 富雄



本日発表した小学生の皆さん、お疲れさまでした。「子どもサミット」にふさわしい立派な発表だったと思います。

私は、森を育てたり、学校などに花を植えたりしている方々のお手伝いをして、秋田県を緑いっ

ぱいにする仕事をしています。

今日は、皆さんの発表を聞いてとても元気になりました。

それは、全国から集まった皆さんが、それぞれ森と親しんだり、学んだり、森を守る活動に積極的に参加していることが分かり、心強く感じられたからです。

まず、広陵小学校や松野小学校、そして川前小学校の皆さんは、地域の方々といっしょになって、国語や理科、図工といった日常の学習の場として、たくさん森林とふれあってくれています。

また、藤里小学校や安代小学校の皆さんは、地域や森林管理署の方々から、森林の働き等について学んだうえで、木を植えたり育てたりする活動に取り組んでくれています。

また、栃尾小学校や松島第五小学校の皆さんは、森林について調べたり、学んだりしたことを、発表会や劇にして披露してくれています。

また、江差北小学校の皆さんは、海岸林の歴史を学習するとともに、ゴミ拾いなどを行い海岸林を大切にしてくれています。

また、三沢東部小学校や合川東小学校、鷹巣南小学校や江刈小学校の皆さんは、歴史ある学校林を受け継ぎ、

立派な森に育てる活動に取り組んでくれています。

また、白神自然学校一ツ森校の活動に参加した皆さんからは、世界遺産の白神山地の自然にふれあい、学習したことの発表がありました。

さて、皆さんが良く知っているとおり、森林にはいろんな働きがあります。木材をつくりだすこと、酸素をつくりだすこと、水を蓄えること、植物たちのすみかになること、土砂崩れを防ぐこと、二酸化炭素を吸収して温暖化を防ぐことなどです。

今回の活動発表では、13校どの発表からも、皆さんが、楽しく森林とふれあったことが伝わってきました。皆さん、皆さんが経験したこの楽しさを忘れないで下さい。また、これから出会うたくさんの友だちにその楽しさを話してあげて下さい。そして、これからも森林とどんどんふれあって下さい。

今はまだ皆さんには実感がないかもしれませんが、そのことがきっと大切な森林を守り育てる力になると思います。

さて、最後に本日ご参集いただいた先生方や地域の方々をお願いします。

ご承知のとおり、ゆとり教育の見直しに伴い、総合学習の時間の減少は避けられない状況になっています。私は、このことが、子ども達と森林との距離を遠ざけてしまうことにつながらないかと危惧しております。今日の発表では、子ども達と森林を結びつけるさまざまなやり方があることをご理解いただいたことと思います。是非これからも創意工夫をこらし、子ども達と森林を結びつける先導役となっていただきますようお願いして講評とさせていただきます。

本日はありがとうございました。



01

02

Title

「森林を活用した教育をする上での課題と克服に向けた
取組み」における先生方との意見交換会

03

04

05

06

07

08

参加校の先生方などによる意見交換会

～教科指導・総合学習に森林をどう活用するか？ 継続的運営に向けた課題とその解決方法は？～

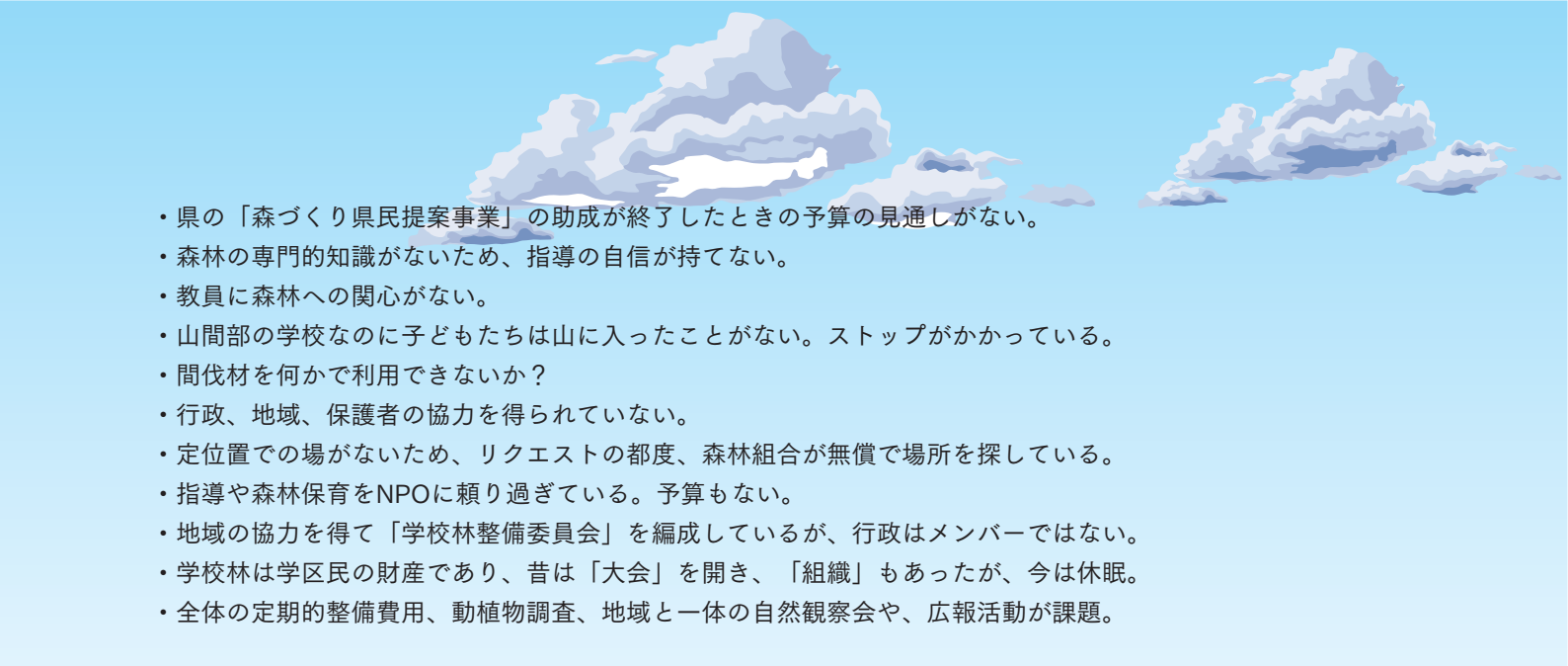
進行：財団法人オイスカ 啓発普及部 吉田 俊通

意見交換会の形式

来年、新学習指導要綱の本格実施を控え、総合学習の時間数が減ることを意識して意見交換会を企画しました。事前に、参加申込書に添付された資料や、各学校長・教頭先生などへの電話での聞き取りなどをまとめた資料を各校に送付し、一読頂いてからサミットにご参加頂きました。意見交換会には参加校教員の他、林野庁本庁職員や、東北森林管理局、森林組合、教育委員会、NPO等総勢40名がテーブルに着きました。参加者が確実に質問・発言できるように、それぞれ希望するテーマのテーブルを選ぶ形式をとりました。テーマとは①「教科指導・総合学習にどう活用するか？」（2テーブル）②「継続的・安定的運営の課題とその解決方法は？」③「遊々の森」制度の利用方法とは？ 各テーブルの進行は、経験に富む方をオイスカより指名させて頂きました。以下の資料は、意見交換会での発言だけでなく、各学校が記述した参加申込書・補足資料、電話聞き取りなどを集約したものです。

各参加校の参加申込書、事前の電話聞き取りにて浮かんだ、主な課題・問題点

- ・総合は3分の2に減る。そこに外国語も加わる。何を削るか苦慮している。ギリギリのやりくり。
- ・総合の時間を確保しても、事前事後の学習は減ってしまう。
- ・森林を活かした教育を、教育課程にどう位置づけるか？
- ・森林を一般の教科指導を含め、より幅広い単元で活かせないか？
（国語・算数・理科・社会・生活・音楽・体育・図工・総合・行事・クラブ活動）
- ・教科指導でどう利用していいか事例もなく分からない。考えた事もなかったが興味深い考えだと思う。
- ・例えば、森林を使って「算数」の授業が出来ないだろうか？
- ・学校林の存在や歴史、先人の苦勞を広く知らせることで、地域を学ばせたい。
- ・育樹活動に関係しない低学年への授業指導方法が課題と考えている。
- ・遠すぎて日常的な利用が出来ない。
- ・思い付き的で単発的な利用でなく継続的な利用にしたい。
- ・教員の異動により先細りする懸念、ノウハウや経験が引き継がれない懸念がある。
- ・一般教員の負担にせぬため、行政への提出書類作成や各種折衝・打合せは校長だけで行っており、自分の異動後の継続が保証されない。
- ・エネルギーに関連付けた授業にて、企業の人的支援を得たが、単年支援で、指導記録が残されておらず、立ち会った教員が異動すればノウハウを蓄積できず終わりそう。
- ・学校林設置の経緯や契約が残っておらず歴史は埋没の状態。
- ・山は荒れ放題で、森林整備を行う必要があるが費用がない。

- 
- ・県の「森づくり県民提案事業」の助成が終了したときの予算の見通しが無い。
 - ・森林の専門的知識がないため、指導の自信が持てない。
 - ・教員に森林への関心がない。
 - ・山間部の学校なのに子どもたちは山に入ったことがない。ストップがかかっている。
 - ・間伐材を何かで利用できないか？
 - ・行政、地域、保護者の協力を得られていない。
 - ・定位置での場がないため、リクエストの都度、森林組合が無償で場所を探している。
 - ・指導や森林保育をNPOに頼り過ぎている。予算もない。
 - ・地域の協力を得て「学校林整備委員会」を編成しているが、行政はメンバーではない。
 - ・学校林は学区民の財産であり、昔は「大会」を開き、「組織」もあったが、今は休眠。
 - ・全体の定期的整備費用、動植物調査、地域と一体の自然観察会や、広報活動が課題。

意見交換会の議論などから浮かんだ、課題解決に向けたヒント集

～継続的な活動・安定的運営を行うための工夫～

（森林を活用した学校教育のための応援団づくり）

- ・PTA・地域住民・NPO・森林のプロ・行政（教育・林務行政の両方）・助成団体などの協力を得ている。
- ・市農林課が県や森林組合との仲介してくれている。「学校林整備委員会」も存在する。
- ・PTA、地域住民、行政、林業・造園業関係者、NPOを巻き込んだ組織（「学校林保全委員会」「学校林・ビオトープ活用委員会」）を持ち、年2回の定期開催。林内歩道整備や下草刈りなどの森林整備も年2回。地域全体で学校を支援している。
- ・歴代のPTA会長が会長を終えた後も学校林委員会メンバーとして残る。「あて職」ではない。
- ・委員会組織の存在で、教員の異動などによる活動の先細りや中断などが起こりにくくなる。
- ・森林を活用した教科指導・総合学習・行事利用を日常的に行うことを第一義に掲げ、隣接した市有林を学校林として設定した。政令都市移行を機に、市と学校との利用契約を結びなおす必要が生じているが、「保全委員会」には県森林課、市教育委員会・水みどり環境課も加わっており、契約作成を依頼している。

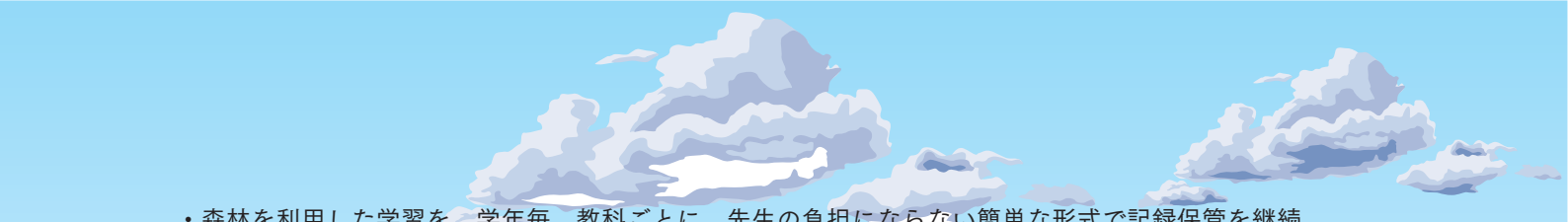
（フィールドの設定）

- ・森林学習は学校林では行っておらず、国有林にて実施している。学校林については5校が統合され、それぞれの学校林の管理を一切森林組合に任せている状態で、活用していない状態が続いている。
- ・日常的に利用できる隣接・至近の場所に、新たに森林環境教育の場を設定する。
- ・学校林がなくても、「遊々の森」制度を利用して、国有林に森林環境学習のフィールドを設定できる。各地域にある林野庁の森林管理署にも、是非相談してほしい。
- ・国有林を森林環境教育活動の場として活用できる「遊々の森」を知ってほしい。
- ・間伐材を利用したいが、出材は立地的に不可能と森林組合から言われた。

（学習を進めるにあたり）

- ・「学校経営」の中核に学校林を明確に位置付け、「学校教育プラン」等の書面上でも明確にする。
 - ・「学校林を活用した地域活性化を目指す100年構想」として全体を考えている。
 - ・学校には森も水田も大きなビオトープ（湧水）もあり、全体を「ジオパーク構想」として捉えている。
 - ・「森林は学校教育のどんなことにも、いくらでも活かせると考えてみては？」と先生方に伝えてほしい。
- （秋田県内小学校の学校林を60年間支援している地域住民のコメント）



- 
- ・森林を利用した学習を、学年毎、教科ごとに、先生の負担にならない簡単な形式で記録保管を継続。後任教員の参考として「ファイリング」「記録」「蓄積」する。教員は異動があるので…。
 - ・一部の教員に負担が課題であったが、分業により大方克服できた。
 - ・既存の教育活動を学校林でやっていくようにすればよい。新しいものを考えることも大事だが、今やっていることを、学校林を使ってやってみるといった方が取り組みやすい。
 - ・先生が考えるだけでなく、子どもたちと相談して、学校林で何ができるかを考えることも大事。
 - ・地域住民で森をよく知る人、植物に詳しい人、地元のNPOに、しばしば指導を依頼している。

（行政・民間の各種施策等を積極的に利用する。）

- ・県地域振興局の「出前講座」からも人的支援を得ている。
- ・「ふるさと学習」として町教育委員会と、林野庁藤里森林センターが全面的に支援してくれており、町内唯一の小学校でもあるため、予算・移動車両・ガイドなど十分な支援を得ている。また、ブナの植林を教育委員会の手配で国有林にて毎年行っている。
- ・「遊々の森」関連で林野庁の協力を得るほか、県の「緑と水の子ども会議」に参加しているため、資金的・人的には恵まれていると考えている。
- ・町緑化推進委員会の資金協力により、森林組合の人的支援を得ている。
- ・エネルギー関連企業の人的な支援を得て、「エネルギーと森林」の授業を行った。

（公的助成・民間助成金などにもアンテナを張る。）

- ・インターネットなどで民間助成を調べると相当数存在する。積極的に応募し、資金獲得を行ってきた。国土緑化推進機構、県の森づくり公社、市の助成、（NPOを通じた）企業の社会貢献支援等。
- ・国土緑化推進機構の「平成21年度学校林整備・活用推進モデル設定事業」の助成を受けた。
- ・県及び町緑化推進委員会の助成金を得ている。
- ・物心両面で県・町の支援あり。県の助成「県民参加の森林づくり事業活動」へ苦労して申請。タイトルは「学校林を活用した地域活性化を目指す100年の森構想」とした。

（成果発表・広報活動として）

- ・学校林60年間の歴史は地域関係者の協力でまとめられ、新聞紙上に連載された。
- ・国や県の紹介等も得て、学校関係緑化コンクールに積極的に応募し、マスコミ取材対応等、各種対外的アピールをすることで、学校全体、地域全体の励みにしている。
- ・特色ある教育を様々な形で対外的にアピールする努力をしている。
- ・地域に向けた報告会として「学校林フォーラム」を開催し、住民多数に児童の発表を聞いて頂いた。



第2
テーブル

「教科指導・総合学習に森林をどう活用するか？」

- 司会 静岡市立松野小学校 白鳥 達也 先生
- 書記 静岡市立松野小学校 片井 清文 先生
- 参加者 山形県舟形町教育委員会 大山 邦博 様
- 参加者 北海道江差町立江差北小学校 小山 彰 先生
- 参加者 神奈川県相模原市立広陵小学校 永月 徹 先生
- 参加者 財団法人オイスカ 事務局次長 萬代 保男 様

意見交換会 記録

〔司〕…白鳥先生 〔片〕…片井様 〔舟〕…大山様 〔北〕…小山先生 〔広〕…永月先生 〔オ〕…萬代様

〔舟〕 教育委員会に勤めている。地域・学校・委員会をつなぐため、活動内容の情報を提供している。13年前から森林学習を始めた。森林管理署と「遊々の森」の協定も結んだ。舟形小は3年前から森林学習に取り組み始めた。ただ、教育委員会から活動の紹介をしても、取り組んでくれる学校が少ない。委員会と学校で、取り組みに対するギャップを感じる。川も山もあるのに、遊ぶことが許されていない子ども達がいる。自然の中での遊びを通して、コミュニケーション能力等がついていくと思う。

学校からの問い合わせはあまりなく、委員会の方から学校に声をかけることが多い。自然観察会のお知らせなど。

〔司〕 委員会と学校のギャップもあるが、学校と地域とのギャップはあるのか？

〔舟〕 地域の方はとても協力的。学校は、安全管理上の問題から、活動が制限されている。年間を通してのカリキュラムがあるといい。子ども達の自然に対する意識を高めたい。自然がいっぱいあるのに、外では遊ばず、家でゲームをしている…。

〔広〕 広陵小は、学校に隣接した森を学校林にしている。先生方にとにかく使って欲しいと言っている。国語や社会、理科など。ただ、森林に関する知識があまりなく、森林に関して教えられる人が不足しており、地域住民や行政に協力して頂いている。4年前に整備され、使うようになった。後から赴任する先生のために毎年各学年で活用した内容を「記録」して残してきた。低学年は生活科、3年生は理科、5年生は国語・社会、図工では落ち葉を使って作品を作ってみた。作った作品を森の中に置いたこともある。ロング昼休みや行事、クラブ活動でも活用しているため、利用時間は年間100時間を超える。林内全域を歩ける遊歩道があり、地域の方も利用している。木や植物などの種類が分からない。貴重な植物があり、散歩する地域住民もいるため看板は付けていない。

〔司〕 「記録」は、どのような形式？あまり細かいと、先生方の負担になってしまうが…。

〔広〕 記録は、あまり細かくなく、負担にならない形式で簡単にまとめている。4年前の整備着手前に、保全委員会をオイスカなどの協力で立ち上げ、行政・森林のプロ・地域住民に参加して頂き、年2回会合を開き続けている。

〔北〕 江差北小は、平成12年に3校が合併して新しい学校になった。本校の対象の森は、海に面した「砂防林」で、森林管理署と「遊々の森」協定を結んでいる。年2回「グリーンスクール」を実施。2kmの森林浴マラソンを実施している。総合学習や生活科、理科などで活用している。ただ、学校から歩いて10～15分のところにあり、授業で活用するのは難しい。また、合併したため学区がとても広く、自分たちの住んでいる所と環境も違うため、子どもたちの意識に温度差がある。整備はバッチリしてくれている。

- 
- [広] 学校林を使うときはどうしている？
- [北] 森林管理署の方に連絡して、鍵を開けてもらう。
- [広] ちょっとした手続きでも、利用には妨げになることもある。
- [司] 小学校しか使わないのか？
- [北] まわりの学校からはあまりにも遠いので、使っているのは本校のみ。
- [広] 森林管理署の方とは、どのような連絡を取っているのか？
- [北] だいたいこういうことをやりたいと相談すれば、森林管理署の方が協力してくれる。
- [司] 生活科ではどのようなことに活用しているのか？
- [北] 四季を感じる。しおり作り。フィールドビンゴ。森林管理署の方が教えてくれる。キノコを育てることも…。合併前は森林がメインだったが、合併後は2番手か3番手に重点が置かれてしまっている。
- [片] 松野小は、学校のすぐ裏に学校林がある。また、大きいビオトープもあり、学校林とビオトープが一体化している。教科では、国語の音読を学校林の中で行ったり、理科の自然観察、図工、体育では体力トレーニングの場としても活用している。
- [司] ジオパーク構想として、校舎、学校林、学校田、ビオトープがひとつながりで考えている。今年度は田んぼも作り、5年生が自分たちで作った田んぼで稲を育てている。
- [司] 学校林・ビオトープでの活動を通して、五感で感じられる子になってほしい。例えば、場所によって風の感じ方が違うとか、体感温度が違うとか、見える風景が違うとか…。放課後は、地域の方がボランティアで子どもたちの相手をしてくれている。（放課後子ども教室）学校林・ビオトープにも進んで連れて行ってくれる。安全面でも安心できる。図書室には、間伐材を利用した机や椅子、掲示板などがある。木のぬくもりを感じながら生活している。子どもたちが楽しむと同時に、教員も楽しむことが大事！そうすると、子どもたちも自然と楽しむ様になる。今は、水車を利用して発電できないか考えている。
- [舟] 先生方の意識にも差がある。
- [北] 学校課題があって、なかなか森林をメインにして取り組みにくい。本校は、中学校と校舎が同じなので、小中一貫教育が学校課題となっている。気持ちも時間もゆとりがないのが現実。英語にも時間を取られてしまうし…。既存の教育活動を学校林でやっていくようにすればよい！記録することも大事。教員は異動があるので…。
- [司] 新しいものを考えることも大事だが、今やっていることを学校林で使ってやってみるといった方が取り組みやすい。先生が活動を考えるだけでなく、子どもたちと相談して、学校林で何ができるかを考えることも大事。やったことを蓄積していくことも大事。
- [北] 各教科の目標、活動の中に、学校林を広めていけばできると思う。
- [才] 各校で学校林の条件が違うが、大事なのは、先生方の熱意だと感じた。

まとめ

- ◎ 各教科の中で、積極的に学校林を活用してみる。とにかく使ってみるという意識が大事。
- ◎ どんな場面で利用したか、負担にならない程度の簡単な記録を残せば、異動してきた先生も、それを見て活用できる。
- ◎ 各団体の協力を得ることも必要。地域との連携も。

第3 テーブル

「継続的・安定的運営に向けた課題とその解決方法は？」

- 司 会 宮城中央森林組合 業務課森林利用課長 佐々木勝義 様
- 書 記 宮城県松島町立松島第五小学校 森居 昭 先生
- 参加者 岩手県葛巻町立江刈小学校 片方 元昭 先生、湯原 尚子先生
- 参加者 秋田県藤里町立藤里小学校 石川 陽子 先生
- 参加者 宮城県仙台市立川前小学校 土生 吉伸 先生
- 参加者 岐阜県高山市立栃尾小学校 山下 弘子 先生
- 参加者 長崎県東彼杵町立彼杵小学校 横尾 純子 校長
- 参加者 財団法人オイスカ 長野県支部事務局長 小林 秀幸 様
- 参加者 林野庁東北森林管理局指導普及課長 高橋 東 様

意見交換会 記録

司…佐々木様 松…森居先生 江…片方先生、湯原先生 藤…石川先生 川…土生先生
 栃…山下先生 彼…横尾先生 才…小林様 林…高橋様

川 着任後間もないため、まだわからない部分が多いが、森林整備の資金が不足している事と、NPOの「里山ネット赤坂」などの外部の協力に頼りすぎている感じがする。すぐ近くの国有林と民有林を利用している。

江 5年前に学校林設定100周年を迎え、見つめ直す作業を行い、何ができるか考えた。活用の幅を広げたい。学校林までは5km、面積は7.5haで町長名義になっている。春は一日がかりで学校林と触れ合い、秋は俳句を詠んで帰ってくる。森林組合などの地域の方、親御さんの協力があって活動できる。

彼 10年前に学校林の存在がわかったらしい。所有は町で、町と学校が3：7の分収契約になっている。このサミットで相談相手が増えることも期待して参加した。

栃 わが校には学校林はなく、森林管理署と「遊々の森」協定を結んでおり、5年生が森林体験学習を行っている。事前事後は学校で指導するが、体験学習は地域や管理署に頼っている。学習発表会でその成果として演劇を行った。

藤 わが校には学校林も「遊々の森」もない。町の「ふるさと教育指導計画」として3年生は町の特産品、4年生は水の学習、5年生は小岳登山というテーマでふるさと学習を実施している。

以前、藤里町には県の「ふるさと教育」の指定が当たった経緯がある。「先生方が変わっても継続できるようにしたい」ということで、教育委員会が主体になり地域の良さを学習し「総合学習の時間」に組み入れている。なお、近くに林野庁東北森林管理局藤里森林センターもあり、協力して頂いている。

松 わが校も、学校林や「遊々の森」がなく、近くの町有林で森林環境学習を行っている。5年生の総合的な学習の時間で宮城中央森林組合の佐々木さんに、現地での指導や森林学習での体験活動の指導を行っていただいている。児童は森林の働きや森林の大切さを学習できている。また、間伐材を活用したもの作りも行っている。専門的な知識のある指導者が地域にいるから可能となる活動である。

司 宮城中央森林組合は5市5町を管轄しており、現在7校で森林環境学習への協力を行っている。その中で感じているのは、推進に向けた課題としては、資金、指導者、場所、継続性の問題があり、行政・地域・保護者の協力と、校長のリーダーシップが不可欠と感じている。

- 〔彼〕** 校長として着任し、放っておけないという意識から、長崎県森づくり制度に申請し、助成金決定の採択を受けた。他の教員に負担をかけることはできないため、学校林に関しては校長が一手に引き受けている。何も分からないところから始めた。予算は確保できた。管理作業はPTA中心に行うよう、ようやく理解が得られた。
- 〔司〕** 県、町行政、森林組合が同じテーブルで話し合うと良いのでは。私の関連では、オイスカさんが紹介したように、「学校林管理運営委員会」として組織化できた学校は、校長の異動後も継続的、安定的運営できている。
- 松島町では森林環境教育として4年生では山歩き、5年生で森林学習を行うが、その指導は町から森林組合に委託され、経費が出ている。
- 〔司〕** 学校林を町に寄附するという事は考えましたか？
- 〔彼〕** そうすると学校林活動を行う動機は全くなり、森林の立地条件がとても悪い事もあり、誰も整備しなくなってしまう。間伐材を利用したいが、出材は不可能と言われた。理由がよくわからない。
- 〔川〕** わが校はNPOや宮城教育大学の協力を得ているが、継続性に難がある。
- 〔司〕** 指導を頼まれる側としては、テーマが決まっていると引き受けやすい。的を絞って学習の手伝いができる。場当たりに依頼されるのは困る。また、定位置の体験学習の場がないと、指導を依頼された側はその都度探さねばならず、それも案外手間がかかる。
- 〔江〕** 本校の場合は地域に支えられている。行政からも支援があり、ありがたいと思っている。森林組合長もいるし、PTAにも森林組合職員がいる。
- 〔司〕** 皆さんの話を聞いていると、学校で対応すべき限度を超えている点が多いと痛感した。私でも答えられる点があるかもしれないので、今後ご相談ください。
- 〔林〕** 長崎県の事例は、県庁に知人がいるので私からも調査や対応を依頼してみます。

まとめ

- ◎ 学校だけで悩まず、外部に相談する必要。
- ◎ 県・町・森林組合・地域住民に相談できる組織体制の有無は大きい。「学校林保全委員会」「活用委員会」などの事例。
- ◎ 民間助成団体などへの助成金申請の道もある。

参考：意見交換会の発言、参加申込書、聞き取り等より抜粋

教科での活用に関して

- ・教科での活用を意識したことがなかった。教科利用は面白いと思う。理科では活用。
- ・特にないが、学校林への遠足の時、俳句を書かせている。
- ・5年の社会では関連した。
- ・全体把握できていないが、敢えて言えば理科、図工で多少関連した程度か。
- ・算数にて、学校林面積とグラウンド面積を比べながら単位換算すること、学校林内のおよその植栽本数を割り出すこと等を検討している。
- ・算数（6年）で、直角二等辺三角形の性質で木の高さを測る。年輪で年齢を測るなど考えている。

- ・学校林は学校に隣接。国語・理科・図工・音楽・体育・行事・クラブ・昼休みで年間100時間以上活用。教科での利用を含めて、実施内容を負担にならない程度の簡単な「ファイリング」をして、後任教諭が参考にできるよう、記録保管している。
- ・市教育委員会「国語」研究授業を当校で実施する。かつて、体力づくりモデル校でもあったため、その意味でも活用できる林内歩道を作った。
- ・まだ、総合以外の利用は考えていない。
- ・遠すぎて日常的な利用はできない。現時点で教科での利用は考えられない。学校は町の中心部に位置し、近くに新たな学校林設置もできない。

総合学習での活用に関して

- ・新学習指導要領の完全実施後は（総合学習3分の2に減）、外国語も加わるため、時間の確保が課題。従って、森林学習も減る見通し。
- ・総合学習の時間数が減ったとしても、従来通りの時間を確保する予定だが、行事前後の事前・事後学習が減ることは避けられず、苦しい、ギリギリのやりくりになるだろう。
- ・今後の総合学習は一層「体験」が重視されるが、体験するには距離が遠く、時間がかかる。
- ・教育課程にどう位置づけるか、教科指導、総合学習、ふるさと教育として教材化することが課題。
- ・昔は、学校林内を利用したクロスカントリーを実施していた。復活させたい。
- ・1、2年生は遠足、3年生は昆虫調べ、4年生は自然体験会、5、6年生は育樹活動という流れがある。
- ・来年、学校林が100年を迎える。3つもある学校林を整備しなくてはという考え、先人の思いや歴史を子どもたちに伝えたいという考えを学校として持っている。「学校林の歴史⇒地元の歴史・昔の生活」の聞き取りを行いたい。
- ・5年生が年5回（座学は除く）。総合の単元にて。
- ・全校行事（遠足）時間内。21年度より5年生の総合で「エネルギーと森林」として実施。
- ・3年～6年が年8回。生活科・総合の単元。単発的であり、継続的な利用にしたい。
- ・企業と小中学校の間でCO2排出量を模擬取引する県のプログラム「地球温暖化防止学習プログラム」モデル校として、「山形環境クレジット」（CO2排出削減量認証書）の交付を受けた。
- ・大変な遠距離ではあるが、5・6年生は年数回総合で活用する。
- ・「遊々の森」の協定（国有林）を森林管理署と結び、間伐や除伐などの体験林業の他、森の中での炊事、「またぎ小屋」の製作なども行った。
- ・生活科・理科・社会・体育など年間を通じて利用。行事にて、グリーンスクール（清掃活動と自然体験活動を檜山森林管理署と連携）、林内のコースにて森林浴マラソン大会を実施。
- ・「遊々の森」協定は結んでいないが、森林管理署のお陰で、体系的な森林学習に取り組めている。

対象森林までの距離・所有・面積等

- ・レンタカーでコストがかかる。しかし、遠いこと（非日常的体験）で逆に思い入れが生じている面もある。
- ・徒歩で10分と近いが、その割に使用が少なく個人的には感じる。「遊々の森」協定を結んだ国有林で、海に面した砂防林。入るには森林管理署に依頼して解錠が必要。
- ・森林管理署の協力で、学校林以外の毎回違う国有林で実施。スクールバスで移動。
- ・遠足では10kmを歩く。往路2.5h、復路1.5h。町のバス、保護者の協力も得て配車。面積7.67ha。
- ・移動の車両は教育委員会や父兄地域の協力を得ている。距離は9～16km。ただし車道・林道からの距離は近い。約60年間にわたり4か所8.84haを育て続け、材からの収入も得た。針葉樹林。
- ・車で数分。教員や父兄の車で移動。2.7ha。
- ・遠い。教育委員会手配のバスで1時間かかる。一日がかりとなる。
- ・徒歩15分の国有林。契約を延長しようと考えている。面積1.03ha。民有林も使用している。
- ・徒歩10分程度の民有林1.5haに新たに設置を検討している。
- ・バスで15分かかり、往復すると半日がかり。3か所、2.61ha。
- ・森林を活用した教科指導・総合学習・行事利用を日常的に行うことを第一義に掲げたため、隣接した市有林0.7haを学校林として2006年に設定した。広葉樹林。
- ・「日々子どもが森に親しむ」という目的・目標を掲げ、行政やオイスカの協力で、学校に隣接する場所に新しく「設置」した。所有は市有林及び民有林0.8ha。針葉樹及び広葉樹。
- ・車で30分の所に2か所「遊々の森」を設定した。遠くて日常使用が難しい事だけが難点。
- ・直線距離は数kmだが、道もなく大変急峻であり、バス15分含め全体2時間所要。面積1.34ha。

サミット後のお便りより

- ・参加した本校の子どもたちの中には、発表前、緊張でご飯ものどを通らない子どももありましたが、発表の後、満足感の中、電車の中でおにぎりをほおばっていました。5人の本校の6年生にとっては、とてもよい体験になりました。自分達の取り組みを発表し、他校の発表を聞きながら、これからの活動に自信を持つことができたようです。地域の方々からの要望で、9月18日の地域の敬老を祝う会で、再び、6年生が本校の学校林の取り組みについて発表することになりました。地域のおじいちゃん、おばあちゃん方は、若かりし頃、直接学校林に関わりを持っておられました。子ども達の発表になつかしさと共に、子どもたちが学校林に関わりをもって頑張っている姿に喜びを感じていただけたのではないかと思います。

結びにうれしい報告です。現在、本校には体育館がありません。耐震強度不足で、昨年取り壊してしまいました。そして、新体育館建設に向けて、今、前段階の準備をしています。今年の秋から1年かけて新体育館が完成する予定です。そこに校舎と体育館の管理棟等の腰板として約40m、学校林の杉材を使っていただくことになりました。市の農林課や教育委員会の方々为学校や地域の方々の思いをしっかりと受け止めてくださったおかげです。学校林の取り組みを始めた明治43年から、来年で丁度100年を迎えます。学校のためにと学校林を整備してくださった地域の先人の方々もきっと喜んでくださるのではないかと思います。

- ・本校では「遊々の森」を活用しており、他校の皆さんの苦勞の半分ぐらいで子どもたちが活動できていると感じました。今後は「遊々の森」を使って森林学習を進めながら、学校林をどう管理してゆくか、学校職員で話し合いたいです。
- ・意見交換会では時間いっぱい話が途切れることなく有意義な話し合いができました。特に今後継続するための予算、委員会、教科での取り組みは、本校には有効な情報になりました。
- ・本校には「学校林」も「遊々の森」もありません。そのため少し場違いかなという感がありましたが、他校の活動の内容を聞くと似通っているところがあり安心しました。「学校林」がなくても、本校のように森林の大切さについて学習している学校は多くあると思います。それがもっと広がると良いと思います。夜の意見交換会で感じた事は、「森林づくり」を教育活動の前面に打ち出すには、先生方の力だけでは難しいものがあるということです。今回のサミットに学校林を持っているが滞っている学校の参加がもっとあると良いのにと感じました。

- ・子ども達の発表については、短い時間の中で活動の概要を非常にわかりやすく伝える力に驚きました。本校の活動に生かせることがたくさんありましたので参考にさせていただきます。夜に行われた各担当者による情報交換会は、大変有意義な時間でした。

○学校林がなくても、関係機関の関わりの中で森林学習を成立させている学校

○学校林があるがために困っている学校

○学校林があり、有意義に活用している学校

とケースが様々だと言うことがわかりました。

また、学校、地域、関係機関の連携をコーディネートしていく力が必要だということもわかりました。

本校の場合は、今後森林学習を実施していく上で、関係機関とどのように連携していくかということが課題です。サミットを通して多くの方々とお話をさせていただき、今後の活動への「相談」ができるつながりが出来たことが大きな収穫です。全国には、使われていない学校林がたくさんあると思いますが、その現状を行政の方々が把握され、どのように支援していくのかという観点でも検討していただければ、子ども達にとっても幸せなことだと思います。学校だけでは、どうしようもないというのが正直なところですが、私自身も本校の学校林をこのように活用しているというカリキュラム（行政との連携も含めて）を作れるよう頑張ってみようと思っています。



01

02

03

04

05

06

07

08

Title

森林体験学習

森林体験学習

8月9日(月)

1 白神山地世界遺産センター藤里館見学

「留山ブナ林」及び「仁鮎植物群落保護林天然秋田スギ林」の散策により森林にふれあう予定であったが、雨天により自然観察を変更し、「白神山地世界遺産センター藤里館」において白神山地世界遺産地域に関する展示やビデオ等を見て、森林体験学習を実施しました。



2 積み木で創作しよう！

使用素材：秋田杉間伐材

間伐材でつくられた様々な形の積み木を組み合わせ、他校の児童と一緒に仲間輪ができるとともに、個性豊かな作品ができあがりました。

笑顔の中、木を大切にする心が芽生えたのではないのでしょうか。



3 マイ箸をつくろう！ スプーンをこしえど！

使用素材：秋田杉端材

製材所等からの端材を使用しマイ箸・スプーンを製作。

削る木のにおいを感じながら生活にかかせないものが木材でできていることを再認識しました。

